

自昭和十九年六月三十日
至昭和十九年七月三十一日
(表紙共六九枚)

陣中日誌

27203

獨逸混成第十五聯隊殘置隊



(1)



天年月日

昭和十九年六月二十九日

陸軍

部隊命令

獨之混成隊第十五聯隊命令

一 聯隊ハ第三上軍ハ戰闘序列ニ編入スルニ付

二 聯隊ハ南西諸島ニ對シテ防衛總司令部官ハ隷下ニ入ラントス

三 人員資材ノ輸送ニ關シテハ別紙計對ニ據ルニ付

美作命第張別紙其一

聯隊	將校	下士官	兵	計	大	八	八	八	八
本	聯	隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊
第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊
水	水	水	水	水	水	水	水	水	水
野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊
子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
山	山	山	山	山	山	山	山	山	山
屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋	屋
會	會	會	會	會	會	會	會	會	會

依テ御子神中尉ヲ引率シ以テ速ニ門前驛ニ歸リテ俾東場
司令部ニ送還スルニ付、別紙計對ニ據ルニ付

必要之指示 岡次入利之ヲナス

官等級	氏	白	官等級	氏	名	官等級	氏
中尉	御子神三六次	二番兵	中尉	川島武天	一等兵	吉田	
中尉	富田良夫	二番兵	中尉	增寺福司	一等兵	大胡安治	
中尉	松尾弘	二番兵	中尉	芳田三郎	一等兵	内田齋作	
中尉	柴田一雄	二番兵	中尉	吉岡直信	一等兵	石渡正一	
中尉	水野春正	二番兵	中尉	金安久吉	一等兵	本橋之吉	
中尉	田村忠義	二番兵	中尉	長田 稔	一等兵	富田定一	
中尉	雨宮幾藏	二番兵	中尉	伊藤卯之助	一等兵	吉澤善之助	
中尉	太田紋三郎	二番兵	中尉	羽津津菊大	一等兵	金子榮次	
中尉	栗原俊夫	二番兵	中尉	土屋榮作	一等兵	原 敏三	
中尉	一條又一	二番兵	中尉	鈴木 慶	一等兵	岡本和吉	
中尉	宇田川健次郎	二番兵	中尉	久保田 節	一等兵	源野重雄	
中尉	三浦義吉	二番兵	中尉	栗田三郎	一等兵	石川國造	

東京小津

陸軍

官等級	氏	名	官等級	氏	名
一等兵	栗田三郎	一等兵	田沼 雅	一等兵	荒明彦雄
一等兵	古田 昇	一等兵	櫻田一男	一等兵	菅田武二
一等兵	大胡安治	一等兵	平山武治	一等兵	櫻山吉太郎
一等兵	内田齋作	一等兵	岡日茂男	一等兵	渡辺 宗
一等兵	石渡正一	一等兵	秦須野芳雄	一等兵	根本 隆二
一等兵	本橋之吉	一等兵	小山 荒	一等兵	石川梅三郎
一等兵	岡本和吉	一等兵	大岡吉次	一等兵	佐久間正三
一等兵	富田定一	一等兵	千葉竜太郎	一等兵	中野 信二
一等兵	吉沢善之助	一等兵	佐藤政之	一等兵	鈴木健治
一等兵	金子榮次	一等兵	丸山庄治	一等兵	佐藤文男
一等兵	原 敏三	一等兵	佐藤庄吉	一等兵	滝口藤助
一等兵	源野重雄	一等兵	上田三治	一等兵	平野定七
一等兵	石川國造	一等兵	樋口良平	一等兵	天井伊助
一等兵	三浦義吉	一等兵	岡田代松	一等兵	岩淵亮一

陸軍

記 事

伍長	高橋宣之	上等兵	滝口秀夫	一等兵	佛田次一
兵長	岩哲良	"	山平英雄	"	吉村芳保
"	稻川次二	"	加藤勝宗	"	小坂善興治
"	田中千藏	"	黒岩候元	一等兵	山下菊藏
上等兵	岩哲良	"	西村梅藏	"	腰巻和二郎
"	宮林幸作	"	保里良雄	"	古林良雄
"	北京伸夫	"	飯田正光	"	高見宗一
"	坂米藏	"	星野若夫	"	飛鳥正三
合計	八九名				

一、余門司車頭停車場司令部ニ至リ司令部殿本脚大尉殿ニ
 一條ノ挨拶ヲ述ベ種々爾後ノ行動ニツキ指示ヲ受ケ左記要領ニヨリ
 打合セラレヌ
 一、本隊ノ到着ホム⑤線
 二、警材倉庫積場ニ乗船岸壁ノ近傍倉庫底下

陸 軍

大 隊 候

先發隊命令

昭和九年六月三十日

先發隊命令第一號

一、先發隊六月三十日八時三十分船橋驛ニ出發門司港駛向トシ出

發トス

二、諸隊ニ先發指揮官ノ意圖ヲ体シ積極任務ノ遂行ニ努メラレ

特ニ左記事項ヲ厳禁ス

一、軍紀嚴正ナラセ

二、防護ニ注意ス(特ニ車中於テ通信ヲ禁ズ)

三、許可ナク下車ヲ禁ズ

四、車窓ヨリ手頭等ヲ出スコトヲ禁ズ

記 事

一、六月二十九日独立混成隊第五聯隊編成以來部隊長着任直ニ
 第一回會合ヲ將校集會場ニ於テ行ハシ將校全員會合同
 二、以後逐次解散、直ニ部隊本營ヲ指改シ命セラレ
 不有大隊本部ニ於テ次務整理中ニ於テ以テ本部ニ變更副

官ノ服業ヲ承リ各隊ヨリ承集ヲ待テ一時間余経過スルニ参集
 ス作戦主任岡澤大尉部隊副官志村中尉極多爾部隊
 時ニ二三三〇各大隊ヨリ参集ニ諸官ト夫ニ命令シ反饋ニ三四〇
 再度部隊本部ニ招致シ後々各隊ヨリ前記人員ノ参集ニ命令シ
 徹宵ニ四三〇漸ニ編成ヲ終ルニ至ル状態ナリ
 二六月三〇日〇四〇〇先発部隊編成引終ル(但前夜招致スル各
 大隊ノ諸官ノ承集極メ不可トシ連絡モ亦極メ不可ナリ)
 各隊先発者會合ニ招致シ遂ニ命令ノ與ハテ本部前ニ集合
 セシム準備整ヒテ整ノ状態ナリ
 部隊本部軍曹太田紋三郎主任佐佐木俊夫西氏ヲ船橋
 驛ニ派シ列車ヲ搭乘シ同ニ連絡ヲナセム
 先発隊員ニ兩官ニ軍曹ニ川守ヲ命ジ一路警戒驛ニ向ヒ
 車中ノ者トシ有線船橋驛ニ東橋ニ目的船橋向ハトスルヤ
 列車ニ同ニ連絡シ部隊經理官トノ連絡不十分トシ極メ苦

陸軍

心機騰、結果緊要任務ヲシテ部隊本部ノ警備トシテ經理關係ノ
 連絡ヲナセム 太田軍曹ニ直ニ東京驛ニ派シ緊要ノ耐、鉄道
 局ニ駛リ直接關係者ト面談シ上主カノ到着ヲ待テム
 〇九四五主カノ東京驛ニ到着其ノ間苦心ノ状態ヲ承リ驛
 長室ニ至リ其ノ状況ヲ周知シ折列ニ計量シ設備トナシ
 輕シテ一〇〇〇発下園行ニ搭乘シ全員候着官署大令ヲ拜
 シ元氣旺盛ニ七月一〇日下園驛下車直ニ門司港行身
 〇九〇〇八五九門司車頭驛ニ到着
 概一時間余遅テ富田主任中尉、緊要ニ許出候、田村中尉
 等、到着同一時間、會同道ニ隨後ノ行動ニ周知シテ
 御隊命令第一號 一九一〇 〇九〇〇
 門司車頭驛
 一先發隊七月一日〇八五九門司車頭驛ニ到着
 二先發隊直ニ各任務ニ奉テ連絡ヲ開始ス
 三陸軍ノ醫官中尉松尾

先發隊命令

門司支店醫務室、高呂廠ニ連絡シ醫務衛生関係及宿
舎地衛生状況醫務室開設等ヲ研究シ爾後衛生ニ関シ應
全ク期スベシ

四陸軍主計中尉富田良夫

門司支店部、高呂廠ニ連絡シ部隊給養、宿舎配當ニ分
酒保品関係等、打合ヒテ、需品受領、配當ニ分テ明クニ
シ設官ニ任ズルト共ニ各種関係整理ノ処理ニ任ズベシ

五陸軍少尉 田村忠義

門司船舶司本部ニ連絡シ東部ニ分擔シ人員兵器彈藥
資材ノ搭載受領ニテ打合ヒテ、部隊東部駐ルニ於テ万遺缺
ナキヲ期スベシ

六陸軍少尉 水野谷正雄

門司糧秣廠ニ連絡シ糧秣ニ関シ打合ヒ、皮領ニ任ズルト共
ニ部隊集合場々資材集積場ヲ選定シ各係官ニ連絡

陸 軍

七陸軍少尉 柴田一男

門司兵器廠ニ連絡シ兵器関係ニ打合ヒ、皮領ニ任ズルト共
ニ御子補中尉ノ指示ニ基キ爾後ノ行動ニ任ズベシ

八陸軍少尉 雨宮英三

先發隊本部ニ有リテ各隊勤務等ニ関シ配當官分掌
ノ圖ニ基テ作製スル万遺缺ニテ、爾後ノ行動ニ関
シテハ別ニ指示ス

九各係官人任務終了ニテ續行スベシトス

一〇余ニ各関係廠所ニ連絡シ、後先發隊本部宿
舎ニテ

二先發隊宿舎ノ左如ク定ム

本部

門司市 白石津(電六三八)
時辰 六 下三時ニ 六八

2. 第六隊 日田助四 藏、依藤宗(履五三五)

3. 第七隊 長川助三 福田屋旅節(履一八八七)

4. 第八隊 日田助二 支野屋旅節(履一六六六)

5. 第九隊 平山原重

少尉	中軍	中主	中尉	中尉	本官
紫田一男	松尾弘	富田良夫	御子神三代次	氏名	氏名
水野金三	田村忠秀	岩田良夫	一條又一	太田紋三郎	吉岡直信
岩田一男	三浦義吉	宇田川健太郎	小島武夫	岩田俊夫	金安久吉
岩田一男	岩田三郎	岩田三郎	岩田三郎	岩田三郎	岩田三郎
岩田一男	岩田三郎	岩田三郎	岩田三郎	岩田三郎	岩田三郎

陸軍

横島八郎	上善兵	岩淵亮一
田沼雅	荒明常雄	高橋宣之
櫻田一男	曾田武二	岩哲良
三山武希	横山吉太郎	福川決
岡田茂男	夜辺深	田中千藏
矢長泰規野牙雄	根本彌一	宮林襄
小山荒	石川格次郎	岩哲良
大岡吉次	佐久间正三	北原伸夫
千原龜太郎	中井公一	坂米藏
佐藤政之	鈴木健治	淺口秀夫
丸山庄治	佐藤文男	小平義雄
佐藤彦門	瀧口藤助	加藤藤宗
上田三治	平野定七	黒岩條花
樋口良幸	天井伴助	西村格藏

三	保里良雄
二	飯田正老
一	星野孝夫
〃	俣田次一
〃	吉村芳雄
〃	小坂井與治
一	芥夫山下菊藏
〃	腰巻和次
〃	古林良雄
〃	高見宗一
〃	飛島正三

陸軍

3. 人員下車 待機場ハ馬繁場候場等ヲ決定ス
 極メテ懇切ニシテ取意アリテ快感ヲ抱ケリ

次ニ東船一門ニ船船輸送司令部ニ至リ左記決定ス

1. 東船期日 時刻場所

予定「航油丸」ハ航海中ニテ七日頃ニ入航(港)ノ見込ナリ再

度一ニシテ期し連絡セラレタリ(屋上四階小濱大尉)

高岸壁ハ第一號小岸壁ナラシモノト未定

保管佐不備長ハ極メテ熱心積極的ニ配慮ス(船船輸送

部軍関係)

2. 船船輸送提出書類トシテ東船者連名簿三通作製

七月三日(日)迄ニ輸送部ニ提出セント(本田軍曹ニ指示作製ス)

3. 搭載人員兵器資材其ノ他所學事項ヲ記載届出ス

(掛官輸送司令部小浜大尉ニ輸送部軍隊保管三部)

次ニ兵站司令部ニ至リ各掛官ニ命令該所等指示ヲ受リ

ト司令部ニ関シテ連絡事項

一 警備司令部 集合場 川司國民學校

二 衛戍司令部 陸軍之部 高橋貴久壽喜

(部隊長到着後自ラ至リ司令部ニ上リ川司司令部ニ連絡)

スレニヨリ報告スルル如ク指示セラル

ハ 警備司令部ノ場合ハ給与ノ現在ハ糧食等ノ供養ニヨリ兵

カメラ分散スルモトス

ニ 部隊長ヲ呼稱スルモトナク爾後司令部分會ハ川司ノ如ク兵ニ

徹底セシム

ハ 一 陸軍部 二 陸軍大隊 三 陸軍大隊 四 陸軍大隊ヲ示ス

ホ 司令部注意事項

爾後配給物ハ分會ニテ各宿舎ニ分配スルヲ以テ出来不得ル

限 自隊兵カノ協力ヲホム

等ノ連絡ヲ取リ一度本部宿舎ニ引上テ隣ニ一七四ヨリ

陸軍

休息ノ暇ニテ茶一箱運送連絡司令部ニ致シ爾後連絡運用ノ禮々

御禮度ヲ度々トシ約シ輸送運用ノ緊急ニ連絡ヲ取リ帰リ直ニ各

連絡係員ト本部ニ會同次日連絡ニ関シ打合ニ再調査連絡不可

キ事項ノ協議ヲナス

一 ⑤ホムト陸軍口ノ調査

二 船舶輸送部ノ書類提出

三 各官衙各廠ノ任務分担ニ基キ再連絡ヲナス

四 列車到着後ノ処置(人員資材ノ指示)

等々ノ打合セラル

再度余ハ船舶輸送部ニ對シ東船ヲ関シ指示ヲ受テ隣ニシテ

ハ一九日頃東船可能ニシテ知リ帰信ス

松尾庫臣 水野分少尉

需品廠ハ何等宿舎配宿命令トシテ東京師團ヨリ命令ヲ

指示モ受ケ居ルニ但シ一ノ夜東京師團ヨリ連絡ノメ其時

衣来ル等夫レミシヲ決定スル

糧秣廠ニ於テ受領ハ船舶入港ニ自隊ニ於テ受領積載スル

コト并連絡清ニ毎日一大苦ハノ跡見エ

三柴田ノ尉ハ各種兵器ヲ受領出来ズル條件 彈庫ニ因リテ送

狀① 200トシノ名稱ノモリ、兵器廠ニ(實物)ハ七月ニ是期着入

ル事定テ之ガ當部隊ノモノナラニ送狀ノ用卷ノ照合、結果未苦

ハ修繕ノ結果送狀數十葉ヲ寫シ歸ル尚定員初未着有、場

合ハ東船モ延期ニシテ倉庫ニ保管シ置ケト又空襲警報ノ

場合ニ於テ自隊ニ分散スルコト等々酌シ帰官ス

四、兵站部ニ於テ給養團係ニテ柴田主計中尉並田村ノ尉ハ次ノ通り

連絡処置ス

先發者ノ給養七月二日自食テ給養ハ本隊ト合スル食料

尚一月二日以降ノ給養ノ場合二日一〇〇〇ト再連絡ス

但、船舶輸送部ニ於テ東船時期決定セテハ給養團係未

陸軍

添付シテカノ(略) (配) 軍給養ニ因リテハ、
心ノ餘果不覚シテ

之ヲ要スニ連日ノ業務運轉、各官衛各廠并ニ其ノ筋ヲ指

示命令等ノ不行局ノ多ク、各係官共ニ杜々有極的ニ其ノ歩ラ直

ニ苦心ニ結果相備ノ成果ヲ修メ、
軍中衛生状態ニ特別一軍ヲ連絡シ、
衛生状態ニ極々良好

衛生

門司到着後ニ於テハ、軍醫、衛生設備ト兵隊若医務室ト

宛接連、
良好ニシテ、
ハ直接軍医ノ踏査ニ依リテ直接衛生ニ要點ニ注意シ、
ト休養ニ遺憾ナラシメ、
隊主力ノ到着ニ依リ、
衛生主任ニ任

天候

候

衛生主任ニ任

記

率

一協隊ニ基キ各隊官ハ口ハヨリ各隊ニ連絡ヲ着手ス

ト余ハ各隊關係々官ニ面接詳細ニ連絡ヲ取リ所要ノ指示ヲ受テ各連絡表ヲ各隊外務官ヨリ得テ

正午再度各隊官ヨリ本部ニ會同本日迄ニ連絡事務手續各關係事項中未決狀態調査協議ノ結果再検査ノ必要

急莫ク考テ進テ可クテ決シテ三〇〇ヨリ再發是大急カク以テ準備スルニトテ命令ス

部隊整備ニ就テ(三三〇一九九)別紙(要圖ノ如ク)總官ニテ特長水野各隊ノ制ヲ指導シヨリ各大隊下官長官長官員ヲ本部

ニ集合編制ニ且テ指示シ(各會同ニ在リ本部會費(別カ)終日カ力カシ漸クニ準備ヲ定メヨリ

二柴田ノ制ハ兵器補給廠到リ庫裏各機四八〇〇梱ヲ受領シ取敢ズ倉庫ニ格納ス

三水野各隊ノ制ハ三言下下官一夫一ヲ以テ船舶司令部ニ到リ資

陸軍

材集積所ノ決定ヲナス

一〇〇俾車場司令部ニ到リ貨車ノ積上ニテ運命ノ人員俾車場ノ分後ニ資材卸下開始シヨリ

次ニ糧秣廠ニテ船舶積上ノ期日延期ニ未定ニテ連絡ス一三三〇〇宿舎配付準備シ各大隊ヨリ全員本部ニテ自來水會同

二同ニ指示シテ直ニ着手ス

三田村ノ制ハ口ハヨリ高島廠ニ連絡事務用情報品庫官具二〇梱重重三六〇箱ヲ受領スルニ何受場所ハ片ニ六〇梱七片

四〇梱其他一〇梱(係是廠直傍)何ニ本部ヨリ三五〇米ノ距離ニ各三三〇所ニ散在格納シハヨリ河段ヲ定メテ決シ更ニ片上

七〇片ヨリ荷物運搬ニ間ニ陸軍輸送航制部ニ連絡シテ貨物自動車使用證明書ヲ受領シ該證明書ヲ貨物自動車部ハ差出シ取車ヲ受クルニテ極ク詳細連絡ニ連絡シテ

又

4. 松尾庫医中尉ハハ。門司兵站即医務室ニ連絡ス
 1. 門司市内ニ腸管佛赤病散発シ、外出シ、他人飲食ヲ禁ム
 2. 部隊衛生班編成ノ件、並所見呈出
 3. 防疫放護所開設ノ件
 4. 滞在周衛全防復周係書復報告ノ件等々
 高船船庫医部ニ検査部ニ連絡左記事項ヲ決定ス
 4. 検査員施

日時 二ノ到着者 三月二日
 三日
 四日

只提出書類 本日二日旅行者運名簿三冊
 運ニ停令ヲ派シ各中隊先任者ヲ本部ニ召集シ各中隊毎ニ
 運名簿ヲ作製衣庫医ニ提出スルコトヲ命シ其旨ヲ告グ運
 5. 富田主計中尉・田村之尉ニ連絡シ富田廠門司出張所
 2. 至リ受領シ田村之尉ハ旅人ト向廣島被服廠門司出張

陸軍

所ニ運送シ何者師團ヨリ連絡ナキニ予備被服一着ニシ
 直ニ兵站部ニ至リ宿舎給養所用ニ連絡シ配給運準備ヲ入
 2. 10. 先及隊衣以下全員部隊生力到着出知ルコトハハ
 3. 余ハ部隊生力ノ先頭ニ至リ誘導(門司市日出版軍庫ニ
 3. 又路)ニハハ隊ノ順位ニ集結左司令會日復員ノ誘導
 指示シ別紙要圖ヲ配給入
 晴ニニニ。直ニ部隊衣宿舎ニ六月三日以降本日迄ノ運
 給事項ノ詳細ヲ報告辭去ニ四〇トナル

年月日 記 事
 昭和十九年七月三日 晴
 2. 10. 部隊衣宿舎ニ視テ直ニ鉄道輸送可令部・腹部隊参
 謀部ニ至ル狀況ニ至スルヲ知リ直ニ宿舎ニ帰付マレル
 独立混成第五聯隊作命第ニ號 門司
 部隊命令
 1. 聯隊主力ヲ以テ今夜門司出發大分縣川南ニ轉進ヲ命マレル
 2. 各隊ノ後續部隊ヲ合シ別表ノ如ク部隊ヲ編成スル

三、联隊本部第「大隊」二一〇〇迄二第「號」岸壁ホ一〇ニ集合シ人負
 搭載掛ノ指示ニ依リ搭乗スベシ
 四、第「大隊」一〇〇〇迄ニ第「號」岸壁ホ一〇ニ集合シ一〇五〇発列
 車ニ人負搭載掛ノ指示ニ依リ搭乗スベシ
 五、第「大隊」在門司部隊一〇〇〇迄ニ第「大隊」指揮下ニ入
 此ハレ
 第「號」岸壁ホ一〇ニ快列車ノ輸送指揮官「西村」大尉トス
 六、歩兵砲、速射砲ニ兵各中隊一門司到着後联隊長ノ指揮下ニ入り
 大休止ノ後人負搭載掛ノ指示ニ依リ二一〇〇発列車ニ搭乗スベシ
 七、各隊「個人」裝備、他火砲彈藥「全部」携行スルモトス
 本部「通信器材」隊醫隊全部ヲ防接種液一週間分ヲ携行スベ
 八、先後着在力「御子」神中尉ノ指揮ヲ以テ現任務ヲ整理シタル後本
 隊ニ追及スベシ

東京小洋館

陸軍

九、御子神中尉「殘置」部隊(別表)又「荷物」ヲ受領シ船舶「司令」部ニ連
 絡シ「速カニ」本隊ニ追及スベシ
 一〇、本隊中尉「速カニ」後續着ノ荷物搭載ニ任ズベシ
 二、余「二一〇〇」第「號」岸壁ホ一〇ニ到リ「第一」次列車ト共ニ前進ス

野馬「計」隊人負水

計	TA	RIA	IP	III	II	I	R	隊 分 別	隊 分 別
大 二 三				水野 谷 夕 尉	藤田 主 計 中 尉	御子 神 中 尉	坂口 英 中 尉	下 三 官	無
三 五 七	一	一	二	九 七	九 七	九 七	一 〇	無	無
計	ト	ハ	ホ	ニ	ハ	口	イ	隊	隊
五				一	二	二	一	一	一
一									
三 △ 〇	一 五	一 五	三 〇	一 〇 三	一 〇 二	一 〇 三	一 三	下 三 官	無

官等級	氏	名	官等級	氏	名	官等級	氏	名
中尉	御子	神三代次	矢	乙部	忠次郎	屋	平山	武次
中尉	富田	良夫	上	上條	久	上	橋本	雄二
中尉	松尾	弘	上	高橋	伴造	上	鈴木	宏
少尉	水野	金正雄	上	内藤	幸雄	上	池田	幸雄
少尉	坂口	順郎	上	飯田	勇二郎	上	土屋	未作
中尉	太田	紋三郎	上	長島	穰	上	清水	榮一
中尉	野村	利人	上	佐野	仙太郎	上	加藤	信次
中尉	渡邊	田雄	上	鈴木	健次	上	鈴木	延次
中尉	川原	樺	上	菅沼	晴六	上	石塚	安太郎
中尉	谷内	雪太郎	上	茂田	井雪治	上	今井	清
中尉	小林	貞三郎	上	塩原	重信	上	胡内	繁藏
中尉	栗本	小俊夫	上	古和	田康平	上	福島	良雄

陸軍

上	小島	謙藏	一	松本	正久	上	栗下	忠佐
一	日奈	貞章	一	増田	禰伝	上	鍛冶	福三郎
一	渡辺	正	一	福田	三四次	上	西山	操
一	大上	三英	一	怒	和一	上	本澤	一
一	青山	忠次郎	一	長岡	一雄	上	宗下	國治
一	渡辺	通雄	一	廣所	輝次	上	片部	武
一	杉田	精藏	一	小島	幸助	上	須田	文保
一	木村	三郎	一	鎌形	長治	上	城所	科勝
一	渡辺	正雄	一	西岡	忠美	上	玉野	佐助
一	遠藤	幸吉	一	川原	長市	上	松本	正八郎
一	横島	八郎	一	田志	二郎	上	高田	榮雄
一	相川	江三	一	秋小	政雄	上	福田	仁重
一	中野	安次郎	一	鎌形	藏三	上	内田	寛
一	田村	常次郎	一	池田	少雄	上	鈴木	不行雄

上	高野 卯一	上	栗田 三郎	上	高水 一郎
。	保坂 芳太郎	。	深野 繁雄	。	松井 孝
。	夕内 新	。	田中 有吉	。	深原 信藏
。	中野 隆一	。	倉林 宗二	。	牧田 益男
。	綱倉 四郎	。	鈴木 長吉	。	高木 善助
。	坂本 省三	。	高橋 善雄	。	佐藤 正
一	木村 二郎	。	水野 實	。	井上 啓二
。	大熊 伴吉	。	我田 穰	上	若林 繁藏
。	岡本 和吉	。	宇田 健次郎	。	伊藤 正美
。	田沼 雅	。	中村 清寿	。	小宮 晴三郎
。	相澤 隆	。	荒井 良吉	一	西久保 啓作
位	齊藤 善一	。	松本 正雄	上	秋和 守三助
兵	伊藤 守三助	。	沃村 光男	。	小林 天雄
。	長田 榮	。	藍原 誠	一	山内 近平

陸軍

一	岡田 武夫	二	根塚 正治	二	高橋 昭吉
上	官林 幸作	。	森山 俊次	。	浜野 登元雄
。	余川 久雄	一	古林 勇雄	一	松平 安太郎
。	大井川 甚忠	二	川島 忠一郎	。	数家 芳雄
一	中田 美雄	。	池永 辰夫	軍	官本 之松
。	清崎 政磨	一	沢田 年雄	夫	福川 清一
上	岩哲 良	二	鶴見 金造	上	吉岡 善作
二	長徳 茂	。	五十里 彦	。	叶田 良正
。	川淵 清一	一	芥田 三郎	一	永原 勇作
。	荒井 喜三	二	重谷 広	二	藤田 繁
。	小谷 清勝	。	礪波 正男	。	清原 清
。	田中 興三松	一	新村 清吉	。	坂口 正勝
一	鍛沼 一郎	二	川村 清新	。	中西 香雄
。	越巻 和二郎	。	芥堤 健治	。	板垣 資雄

二	法衣達恒明	一	水祥虎吉	二	安奈英男
一	高 清	一	倉足高友	一	金平清忠
一	吉岡直信	一	崎田忠秀	一	小松繁秀
二	林 宗三	一	菊吉良作	一	菅原秀真
一	北原信夫	二	大宮 弘	二	加藤勝宗
一	中沢雄吉	一	中西友吉	二	深根光治
一	水野助夫	一	西村 清	一	白木唯二
一	岡本孝一	二	北原正教	一	馬場素次郎
一	澁口秀夫	二	宮下秀雄	一	永野今朝雄
一	末平政雄	一	山本正巳	一	青木道秋
一	馬坂吉雄	一	高遠勲	一	宇島 實
一	能谷重吉	一	羽田野四郎	一	原 正彦
二	坂 宗造	二	世呂沼邦明	一	高橋政治
一	壺上武宗	一	豊島利春	一	和田中仙藏

東京小澤組

陸軍

二	橋本 正	一	高見宗一
一	鈴木徳一	一	前川 邊
一	伊藤作一	一	東京 尚
一	前林熊雄	一	廣瀬一男
一	三浦義吉	一	小野清美
一	鈴木勝見	一	野口四郎
一	安藤多一	一	新井正治
一	菅家文一	一	畔形吉雄
一	高野 昇	一	豊田 進
一	櫻積 誠	一	岡根武吉
一	鈴木孝四郎	一	加藤勝弥
一	堀内芳範	一	高沢乙郎
一	柳内 一	一	丸山俊雄
一	吉山久夫	一	西島隆一

一	長島五郎	伍	吉川幸一	二	北爪勝
中村一郎	二	佐藤幸一	渡辺万重	小林芳雄	
田島晴一	吉岡富十郎	緒方信男	振武勝雄	中島唯好	
長田正一	小山千代吉	大島三郎	後藤進	小岩井二郎	
廣部正治	三浦啓郎	佐々木淳作	智野善治郎	林次男	
岡部正治	草野昌夫	渡辺清三	瀨谷初夫	佐藤正	
渡辺清三	影山乙右	平野涼吉	磯山巳未		
草野昌夫	横川勘作	福田照雄	佛田漢一	吉村芳雄	
岡部正治	佛田漢一	福田照雄	佛田漢一	吉村芳雄	
林次男	佛田漢一	福田照雄	佛田漢一	吉村芳雄	
智野善治郎	佛田漢一	福田照雄	佛田漢一	吉村芳雄	
三浦啓郎	佛田漢一	福田照雄	佛田漢一	吉村芳雄	
佐々木淳作	佛田漢一	福田照雄	佛田漢一	吉村芳雄	
廣部正治	佛田漢一	福田照雄	佛田漢一	吉村芳雄	
長田正一	佛田漢一	福田照雄	佛田漢一	吉村芳雄	
田島晴一	佛田漢一	福田照雄	佛田漢一	吉村芳雄	
中村一郎	佛田漢一	福田照雄	佛田漢一	吉村芳雄	
長島五郎	佛田漢一	福田照雄	佛田漢一	吉村芳雄	

陸軍

一	黒岩俣花	上	山内鉄夫	一	河部金吾
滝沢泉	二	高山多雄	長江豊次郎	坂林二郎	
浅沼清	高橋太郎	佐藤政之	佐藤政之	小林正吉	
黒田伴男	佐司繁治	佐藤万太郎	北山他三郎	柳復野藤雄	
伊藤桂治	眞藤兼代治	近藤猛	佐藤勝太郎	大府俊秀	
櫻井沢	大内勇之助	南郷弘泰	相澤富三	相澤富三	
村山盛次	大内勇之助	南郷弘泰	相澤富三	相澤富三	
佐藤信助	大内勇之助	南郷弘泰	相澤富三	相澤富三	
渡辺正一	大内勇之助	南郷弘泰	相澤富三	相澤富三	
大内勇之助	大内勇之助	南郷弘泰	相澤富三	相澤富三	
相澤富三	大内勇之助	南郷弘泰	相澤富三	相澤富三	

上	河内長次	二	吉魚吉之助	上	高橋亨之助
・	大滝虎二	・	伊藤美男	一	鈴木美雄
・	篠田太郎	・	吉田木雄	二	中野五造
一	上田三郎	・	田中善之助	軍	鈴木美衛
上	早坂高雄	・	船岡一郎	上	堀 芳太
一	大橋保三	・	滝沢治二	・	入島文美
・	穴澤 正	一	榎原胞雄	・	増子俊夫
・	上野吉男	・	安藤美太郎	・	鈴木覺猛
・	小林金次郎	・	藤原藤松	一	目里初雄
・	山口丑藏	・	高橋三郎	二	橋本 喬
・	八子利助	・	岡山美雄	二	阿久津勝雄
・	石橋金一	上	水野秀雄	・	山口勝雄
・	本田孫四郎	・	桶口良平	・	橋本美田の吉
・	白木 茂	・	天井伊吉	・	佐野正夫

陸軍

二	水卜吉二郎		
・	小林貞雄		
・	星野岩雄		
・	小坂井奥治		
一	中野景樹		
・	澤田徳治		
・	山下菊藏		
・	佐藤 正		
・	廣瀬巳代治		
・	小林 庄作		

記

事

一、余ハ九〇引継キ之前任務續行ス

二、官田中尉並 兩宮軍曹ハ終日兵站ニ各周保警ト連絡シ上第ニ次到
着部隊ノ既宿給養ニ準備ニ専念セリ

三、田村中尉昨田ノ村ニ床品廠ニ至リ各用品ヲ受領東船ニ準備ヲナス

四、松尾中尉ハ兵站医務部ニ連絡宿舎衛生ニ関シ打合ヒ且、電品廠ニ至リ
医科ニ薬品ニ器機ニ関シ連絡ヲナス

五、残余ノ下士官兵ハ宿舎ニ於テ武器被服ノ手入れニ出船準備ヲナス

六、独立混成隊十五聯隊作命第ニ三號第九項ニ基キ残置隊員三八六

名全クヲ蓋シ一ハ〇〇〇ノ列車ニ乗車シ搭載ヲナシ殆ド徹富ノ状態

ナリ而シテ残置隊員ハ三日ニ一〇〇本隊ト分シ爾後依然門司ニ於テ
宿舎ス

昭和十九年七月四日

晴

天候
残置隊命令

御隊命第ニ一號

一九三七・四・〇三〇
司(宿舎地)

陸軍

一、残置部隊ハ門司ニ於テ宿舎セトス

二、各隊ハ宿舎地ニ(別紙要図区分表ニ基キ)宿舎スベシ

三、日直將校 陸軍少尉 水野谷政雄

巡察將校 陸軍大佐 坂口順郎

日直下士官 陸軍少曹 野村俊人

右各頭書クニ通シ七月三日上番勤務ヲ命ス

依ッテ四月〇三〇〇ヨリ服務スベシ交代ハ一ハ〇トス

四、宿舎衛生ヲ左ノ如ク定ム

左記

一、歩兵大隊ヨリ司令一(下士官) 歩哨掛ニ 歩哨九

二、特別守則ハ巡察経路ニ関シテ別紙宿舎衛生守則ニ定ム

三、七月四日上番勤務者ハロトトニ交代ハ一ハ〇トス

四、服装ハ執銃帶劍雜糧水筒携行ナス

五、公用以外ハ一般ニ外出ヲ禁メス公用ノ服装ハ草鞋ノ軍装ニシテ

水筒携行スベシ

五、診断ハ心患ニシテ三〇〇ヨリ本部宿舎ニ於テ実施ス

六、整ヒタル自今場所高野盤所公園トス

七、給養ハ七月四日朝食ヨリ各舎主ノ供養ヲ受クベシ

八、日課時限ヲ左ノ通り定ム

起床

〇六〇〇

朝食

一一〇〇

診断

一五〇〇

日課時限

二〇〇〇

消灯

二一〇〇

九、余ハ本部宿舎(原屋旅館)ニ在リ

一、只〇〇余ハ船舶輸送司令部参謀部ニ在リ、當試参謀ニ連絡
機密分類ニ、梱受領道ニ宿舎ニ運搬道并衛ヲ以テ管
理ス直ニ引継キ山本参謀ニ連絡爾後ノ行動ニツキ指示

陸軍

陸軍

ヲ受テ高東京市面参謀部ヨリ「グレイズ」ニ関スル件電報アリテ取調
ベシハ参考人トシテ高野中尉、水野少尉及口准尉三名ヲ招ケル

引継キ輸送部ニ在リ東船ニ関シ連絡スモ未決

二、関守尉以下全員海没防止梱包整理シメ全方ヲ傾注實施ス

一、部矢力ヲ以テ(三〇名)唐島高島做川司文廠ヨリ常品四三〇梱ヲ

受領ニ號片壁中ムニ積載ス

一、給養ハ依紀命主供養

二、第ニ中隊注軍一等兵木村ニ部賜養ヲ疑ヒテ以テトハ

被ニ入院

他全員ノ疲労ヲ要シ極ニ重キ一兵ニ五五 一部ヲ含ム

御汲命等本表ノ如ク定ムルモ業務ノ關係ニ依リ援助スモトス

年月日

昭和十九年七月五日

晴

天候

御汲命等第三號

一九七五

一〇〇

水筒携行スル

五、診断ハ心患ノミロヨリ本部宿舎ニ於テ実施ス

六、遊園場ハ自今令場所ホテ盤所公園トス

七、給養ハ七月四日朝食ヨリ本舎正ノ供養ヲ受クベシ

八、日課時限ヲ左ノ通リ定ム

起床時 〇六〇〇

會報 一一〇〇

診断 一五〇〇

日ノ長呼 二〇〇〇

消灯 二一〇〇

九、余ハ本部宿舎(原屋旅館)ニ在リ

記 事

一、八〇〇余ハ船舶輸送司令部參謀部ニ在リ、當部參謀ニ連絡

機密分類ニシテ、船隻運直ニ宿舎ニ雇入、船道沿岸衛ヲ以テ管

理ニ直ニ引継キ、山本參謀ニ連絡、爾後ノ行動ニツキ指示

東京小隊

陸軍

ヲ受テ南東京師團參謀部ヨリ「カクテイト」ニ関スル件電報ヲ以テ取調

ベシト參考人トシ、高田中尉、水野少尉、坂口准尉三名ヲ招ク

引継キ、輸送部ニ在リ、東船ニ関シ連絡スルニ未決

二、関中尉以下全員海没防止梱包整理ノメ全方ヲ傾注實施ス

一部兵ヲ以テ(三〇名)着島、高島、飯川、司支廠ヨリ、常呂、四三、桐ヲ

受領ニ、炭、片、壁、木、ニ積載ス

一、給養ハ依然今主供養

二、第ニ中隊陸軍一連兵木型、加、腸、狭、索、ヲ、疑、ハ、以、テ、小、倉、陸、軍、病

院ニ入院

他全員、復方、其ノ種ニ達スルニ異狀ナシ

御隊命令第三號 川部 廣 啓

一、明日部隊全員、兵、奉、資、材、ノ、整、備、並、海、没、防、止、取、付、作、業

ヲ行フ、依、テ、左ノ通リ、心得、ベシ

集合時間(〇八〇〇) 集合場所(本部前)

隊置隊命令

給養

人員勤務者、除キ全員
 服装 果袋 上衣、腹巻、脚絆、(下士官、帶剣)
 細計二周、八坂口、安技、倉庫、指簿、不
 二、日直掛夜 陸軍中尉 園 太郎
 迎撃隊夜 陸軍少尉 水野谷政雄
 日直下士官 陸軍安技隊長 川原 輝
 右頭書ノ通、七月五日二番勤務命令
 三、倉官衛兵ヲ左ノ如ク定ム
 五日 第一大隊
 六日 第一大隊
 七日 第三大隊
 四、荷物監視衛兵ヲ左ノ如ク定ム
 五日 聯隊砲中隊
 六日 連射砲中隊

陸軍

七月 二矢中隊

五、部隊主力ニ追随到着迄、荷物人員搭載、荷物庫概ニ周リ勤務
 分担、左記ノ如ク定ム

全	中	子	御	全
隊	隊	隊	隊	隊
下士官	下士官	下士官	下士官	下士官
搭	搭	搭	搭	搭
乗	乗	乗	乗	乗

備考 本表ノ如ク定ムニ、業務ノ關係ニ依リ、援助スルモノトス

昭和十九年七月五日 晴
 御隊命令第三號 一九七五 一〇〇

一 明日程林受領ス依テ左ニ廻リ心得ル
 差出人員各大隊ヨリ下士官一名 兵ニロカ
 集合場所 本部前

服装 本日ニ同じ

二 日直將校ヲ左ノ如ク定ム

六日 上番 水野谷少尉

七日 坂口准尉

八日 岡田中尉

三 巡察將校ヲ左ニ通シ定ム

六日 松尾中尉

七日 富田中尉

八日 坂口准尉

四 残置隊命令追加

某二中隊陸軍上等兵内田梅員ノ被患者(木村三郎)ヲ護送ノ

東京小隊前

陸軍

ノ多ク小倉陸軍病院ニ出張ヲ命ズ(即日帰隊)

五 明日大日兵器受領ニ運搬シメロシニ各大隊ヨリ兵一口名本部前

ニ差去リ坂口准尉ノ指示ヲ受ケムベシ(服装 本日ニ同じ)

六 明日日左記ノ如ク檢便ヲ實施ス依テ各隊ハロシニ二號岸

壁前ニ集合スベシ

左記

一 檢便場所 二號倉庫屋上

二 檢便ノ身ヲ集合位置ニ二號倉庫階段廣場

ス各人ニ文付セシ「エケラ」持参

註「エケラ」ハ復刻版布ス

七 陸軍兵校佐長 川原 輝

八 兵 長 高橋伴造

九 乙部忠次郎

十 上等兵 平川 蔚

全 上條 又

右岸某後領至孝津領ノ本日より泊ノ予定ヲ以テ官崎駐
三納代へ出張命令ハ
一 部隊全費(勤務者ヲ除ク)ロハロ本部前ニ集合シ第二號
岸壁積載兵器資材ノ整備ニ海没防止取付作業ヲ實
施ス

二 一〇〇官崎駐三納代部隊本部ヨリ市川庫營以下三名ノ車
絡者来リ通信器材梱包ヲ引渡ス

三 一五〇〇余ノ輸送部ニ於テ杭洲丸乗船ニ付テ打合セラヌ
四 一八〇〇三納代部隊本部ヨリ柴田ノ厨庫路ニ来リ

第一鉄座輸送司令部ニ對シ主力移動貨車後送ニ関シ輸
送計畫ノ打合セラヌ
ロ大ロロ 八輛 一八〇〇三輛ノ二回ニ亘リ貨物後送セラ
ルニ付テ第一①②線ニ入貨ニト等運路

東京小津部

陸 軍

二四八内司狀発ニテ帰隊同時ニ検査合格ニ相ツ送届方ヲ依
頼登込ス川倉佐長以下五名同列車ニ渡送ラ乗ノ陣立木室
急イメニ納代ニ出張セム



昭和十九年七月六日 晴

昭十九年七月六日 晴
昭十九年七月六日 晴
昭十九年七月六日 晴

一本ヨリ乗船日迄河物監視衛天トシ兵文も増加ス

依ツノ之カ差去本日工五四ト七日ノ従来服務中隊服務スル
モノトム

二 糧秣及炊爨ノモノミ。全員本部前ニ集合シ水野介ノ付
指シテ後ヲ可シ

三 七日一〇〇本隊ヨリ返還糧秣計着ス依ツテ之カ却下ノシメニミ
迄本部前ニ自合スル

四 明日海没敷育明日修ノメ下士以上全員ロ入ミロ迄ニ本部

前二日命令に因り、中尉ノ指示ヲ受ケ、ハシ
會報

二兩今食事数ノ増減アル場合豫メ富田中尉ニ連絡ス
二明日起床、只ロロトス依リテ充分休養ス
三其時、必ズ舍外トシテ体操ヲシ、軍歌練習等ヲ行ヒ、午後解
散ス

京事

一余、原直地司令部ニ移動後、直地到着、因リ本郷大尉ニ連絡ス
二坂口中尉以下二十五名ハロロトシテ兵舎ニテ休息スル所ニシテ、
二坂口中尉以下二十五名ハロロトシテ兵舎ニテ休息ス
三一二〇〇ノ計隊全クハ松尾中尉ノ指示ニ依リテ行ス
四一三〇〇ノ計隊全クハ本郷大尉ノ指示ニ依リテ行ス
五之類ノ指揮ニテノ聲援受領ヲ受ケル
六一服房等ニテハ、休ムル所ニテハ、休ムル所ニテハ、休ムル所ニテハ、
七二服房等ニテハ、休ムル所ニテハ、休ムル所ニテハ、休ムル所ニテハ、

衛生
（空）
生

東京小澤

陸軍

年月日
天候

昭和十九年七月七日

晴

隊員命令

御隊命令第五號

昭和十九年七月七日

一陸軍中尉 岡太郎

二少尉 水野政雄

右船上監視輸送難時ニ於テ、軍隊行動ニ因リ、放

官命令

二六日残置隊命令第五號第三項ヲ同日ロロトシテ変更ス

會報

一本部各中隊分隊長ハ本七日輸送司令部ニ於テ習修スル船

上監視ノ要領又輸送船遭難時ニ於テ、軍隊行動ニ放

官ヨリ速ニ部下ニ放官徴スルベシト

二右二箇ノ箇中尉ノ教育アルニモ本ロロハロロ司令部前日

合ニシト

命令

一司令部前日、荷物監視衛兵ヲ如クシテ、公

服務要領ニ從前通ルトス

日分	八日	九日	十日	十一日	十二日	十三日	十四日	十五日	十六日	十七日	十八日	十九日	二十日	廿一日	廿二日	廿三日	廿四日	廿五日	廿六日	廿七日	廿八日	廿九日	三十日	
1																								
2																								
3																								
4																								
5																								
6																								
7																								
8																								
9																								
MG																								
IA																								
TA																								
P																								
R																								
計																								

記 車

一、余ハ其志ヲ補充ニ因リ、既部隊亦深ク官然ト別官ニ連絡シ、
 東部亦六四部長先公文命宛テ手續ヲナス
 二、又三ノ周中尉以下下官及全日輪送司令部中尉中尉、船止並
 親要員等、遭難時ニ於テ、艦隊行動ノ要領ニ因リ積極的ニ反
 対ス
 一八〇〇ヨリ、錦西國民學校講堂ニ於テ部隊全員五月又教育
 ヲ実施ス

東京小津

陸 軍

三、宮崎縣三浦代本隊ヨリ、彈藥貨車約一万梱返送ニ到着シ、①②
 餘ハ十車編リ、緊急部下ニ下ルニモ、依然東船日程五船、
 未決定ノ人、困部ス取敢テ一部部下第一号岸壁ニ、舟橋南
 始ス



天 年 月 日
 候 日

昭和九年七月八日

晴

陸軍部命令

御隊命令第六號

陸軍部令

一、部隊全カヲ盡シ直ニ彈藥ヲハシテ、積替ヲ實施ス依テ各
 隊ハ全玉ニ連絡シ、晝食ヲ終リ土跡ニ十分近ニ本部別ニ集合
 シ、周中尉ノ指示ヲ受クベシ
 二、水野谷少尉ハ、トシテト連絡シ、彈藥ヲ搭載ニ分ララスベシ
 三、坂口准尉ハ、彈藥ヲ各彈種別ニ区分シ、トシテ搭載場所ノ
 運搬ニ任ズベシ
 四、富田中尉ハ、トシテ代金ニ因リ、經理全般ヲ担任スベシ

追加命令

一 明九日一四三〇ヨリ別紙計画ニ基キ彈薬米食料ヲ輸送

船ニ搭載ス

二 联大隊本部ハ左表ノ如ク残置人員ヲ選定シ準備交代
名ヲ明九日八〇〇迄ニ本部坂口准尉ニ提出スベシ

左記

區分	下士官	兵計
部隊本部	一	二
第一大隊	一	一七
第二大隊	一	一六
第三大隊	一	一七
計	五	四八
	一	一七

三 明九日搭載準備多ク梱包区分ヲ行フ
各隊令内監視ニモテ除キ全負ハ八〇〇迄ニ本部前
集合シ周中尉ヲ指示ヲ受クベシ

東京小津野

陸軍

記事

余船船輸送部ニ連絡所要ノ指示ヲ受ケ帰舎ス

一 一〇〇部隊全カヲ以テ彈薬ヲ解舟ニ積替サス

周中尉彈薬庫搬入区画ヲサス

坂口准尉彈薬庫却下ニ任ズ

四 水野谷ノ尉艇舟化貨物搭載ニ任ズ

五 富田中尉本日迄出網整理正全隊支拂ニ任ズ

六 終日勤務ニ任ズ服分要ニ任ズ

七 余船船輸送部ニ召集シ乗船名簿ニ乗船ニ任ズ

整備ヨリ一〇〇解舎ス

警報発令 七 深夜警報 空襲警報 散発令

情報 八 〇 〇 二 空襲警報発令

〇 〇 九 空襲警報発令 (以上西部隊司令部発表)

〇 〇 一 五 島津正三敵艦手帳ノ爆音ヲ聴ク

〇 〇 五 伊豆角頭上空ニ着明タル爆音ヲ聴ク 嵐ニ致シテヲ要ス

此

○二五〇敵機一枚長崎ニ進入同時原福岡ニ進入爆撃機

北九州方面ニ甚ク大ニ要ス

長崎方面ニ夫襲撃モ雲座キタメ及見エリトモ、如シ

(以上長崎要塞司令部)

○二四五B24P25未明○二四五F10可地已行途中 高度九〇〇

近海船舶豊然ナシ (以上西部軍司令部)

記 本一警報下令時部隊行動

1. 〇〇一 整支隊 報発令トテ不慮番ハ命令ニ基キ各部隊ヨリ整

2. 〇〇一 九空襲撃 報発令トテ坂口准尉以下五〇名F10司令官頭

ニ彈薬ノ被傷ニ動残余ノ民防隊ニ協力各町内直接被撃

同時ニ糧秣被傷要員トシテ増加衛兵又若干ノ兵員ヲ派

遣ス

3. 〇〇二 下士官以下ニ名連隊又命令受領ノメF10司令官部

ニ派遣ス 今部隊衛兵増加又対空監視 射撃部隊トシ

東京小津部

陸軍

4. 〇〇三 出動準備完了ト同時空襲撃ノメ全負傷者待機ス

各種傳令ヲ運用シ情報ノ蒐集又各整支隊地已ノ連絡ヲ宏

ニス部隊配備ヲ完了ス

5. 〇〇四 彈薬八箱本部ニ奉着衛兵ヲシテ監視ニ任セシメ所要

彈薬ヲ各隊ニ配布携行ス

6. 〇〇五 彈薬(ニ號石炭)倉庫ニ積載シテモテ全散

7. 〇〇六 敵機F10司令官通過爆撃音四取入全負傷

8. 〇〇七 爆撃音四 日三五一全一 機南銃三〇発以上

9. 〇〇八 爆撃音三

同時利梅舟舟頭方ヨリ機用銃十銃射撃ノ実況實ニ

壯修ナリ

10. 〇〇九 水野本少尉以下五〇名 各々敵ニ於テ彈薬監視

ヲ命ジ出陣ス

11. 西一五空襲被害者救済会

11. 西三〇空襲被害者救済会 全員徴収宿舎二階 仮眠の準備

昭和十九年七月九日

晴

天候

一、八〇〇名以内監視ニシテ計全員周中尉指揮ニ依リ二號

岸壁ニ於テ梱包ニシテ實施スニシテ終了スルニ至リ

二、四三〇名計重キモノ單葉葉至資材梱包ヲ輸送船内ニ搭載

ス

三、三三〇名杭州丸入港並ニ船内視察貨物搭載係人員搭載係

員次配船ニ着手ス

四、計隊ノ彈藥箱合〇〇梱包資材糧秣數千梱ニテ番船船ニ搭

載シ番船船ニ至リ通梱包搭載ス搭載概テ完了ハ明日

日日本船ナリ

東京小津

陸軍

陸軍

昭和十九年七月十日

晴

天候

一、部隊別紙人員有テ疾置シ本日一四〇名杭州丸ニ乗船シ本隊

ニ追及セントス

二、依リテ疾置人員ヲ除キ全員一三〇名追ニ本部前ニ集合スベシ

三、周中尉下軍官全員トテ乗船地ニ到リ輸送船ト打合シ

テ人員自ラ搭載準備ヲナスベシ

四、坂口准尉ニテ次疾置人員ヲ指揮シ疾置ニ彈藥箱資材

ヲ後船ヲ以テ追及スベシ

五、司令部衛兵ハ本日一〇〇名以テ徴収スベシ

六、荷物監視衛兵ハ一一〇名ニテ次疾置人員ト交代スベシ

二入院

他將夫夫ニ元氣旺盛ニシテ其ノ脈方ハ極ニ速ス

會報

一部隊乗船と同時に輸送指揮官坂口申佐指揮下に入

ルモノトス

三隊大隊本部各中隊、携行用彈薬ヲ交付スルハ、尙乳銃者一人ヲ發輕機関銃三口ヲ發シテ、請示スルモノト正許返シテ

本部	坂口順郎	二中队	一	大熊伸吉
本部	野村利人	三中队	上	栗田三郎
工本部	渡辺由雄			高木善助
工本部	谷内要太郎	四中队		岩哲良
本部	小林貞五郎		二	川淵清一
本部	菅沼階吉	五中队	矢	稲川清二
一中隊	茂田博治		一	篠田崇
一中隊	川島謙藏	六中队	一	大野東一郎
一中隊	増田耕作		二	木下益夫
一中隊	秋山政雄	七中队	上	早坂高雄

東京小津船

陸軍

七中队	一等兵	大橋宗三	九中队	上	佐藤佐助
八中队	二	坂本美吉		一	菊地勝也
		佐野正夫	計		三五名
輸送指揮官	五二七丸	杭輪命第六號	一九七九	一六一五	

一部隊、現地に於て一部人員、乗船及材料ノ積換並増積ヲ資

材料積載作業開始予定時刻、一六三〇に徹夜之が

人員、乗船、明日以下予定之細評、別命ス

各隊、左記船内勤務負ヲ残置シ、將校以下全カヲ以テ、前

但し船内勤務ニ差支ナキ全員ヲ以テ之カ交代ヲ備員トシ

作業隊長ノ指揮下ニ入ラニベシ

左記

一 警備司令

二 日直將校

三 船内衛兵

四 対空監視哨ノ主力

五 船艙監視兵(必要ノ最上ノ細部ノ獨立部隊長ヲ

定スベシ)

服装(船内勤務員ノ器具(含救命胴衣)ヲ脱シタ

ル軍装ノ作業隊員ハ器具又上衣ヲ脱シタル田舎装

トレ水筒ヲ携行スルコトヲ得

三者略

四者略

五 作業員ニテ方リテハ嚴ニ危害ヲ防ニ注意スル兵ニ防謀ニ

東亞小津船

陸軍

対空警備ニ備ヘテ期スベシ

六者略

七 予ニ船内輸送指揮室ニ在リ

輸送指揮官 露口中佐

下達法 牒紙ヲ集メ要旨口達後印刷配布

輸送指揮官 五二七丸 杭輪命第七號 一九二九年八月

一部隊ハ現地ニ於テ一部部隊ノ増加乗船ヲ實施セントス

ニ各部隊ハ杭輪命第一號ノ予令ニ基キ前員ノ増加収容

スベシ

乗船日時ハ明日ト予定シ其ノ搭載区画ノ細部ハ別紙

(省略)ニ據ルベシ

輸送指揮官

露口中佐

下達法 印刷配布

能事 一部隊前日以未徹宿引續キ荷物ヲ一層積ミ搭載ヲ實施シタリ

衛生
 海軍
 天候
 命
 輸送
 指揮
 令

彈藥及日用品梱包若干ヲ除キ船内搭載ヲ完了ス
 二部隊ハ坂口准尉以下二十五名ヲ残置シ全員一四〇〇杭洲丸ニ乗
 船完了ノ際坂口中佐ノ指揮下ニ入ル
 三南甲尉以下六名和田中佐ノ指揮下ニ入り五二七九三番船艙ニ分
 乗ス
 四給養シテ食料ヲ船内ニ於テ受給セラル
 五彈藥各人ニテ免軽械周銃ニテ免配備
 乗船ト同時ニ救命胴衣各人ニ個支給セラル(正員三訓示ヲ
 一ニ船内緊急噴掃ヲセズ
 大部隊ニ爾後ノ行動準備シメテ川口港ニ仮泊ス
 一一般元氣旺盛ニシテ異状ナシ
 昭和十九年七月十一日 晴
 五二七九杭洲丸命第十號 一九七一一一三〇
 河

東京小津船

陸軍

一部隊ハ本夜依然現在地ニ假泊シ爾後ノ行動ヲ準備セリス
 二各部隊積込船訓練ヲ實施スト共軍紀ヲ振作シ併テ將兵
 ノ休養ヲ適切ナラシムル
 特ニ防護軍紀ヲ確立シ即水訓練ノ徹底又交通統制ノ勵行ニ
 著意ヲ指シテスベシ
 三爾今川口在泊間特ニ不承ノ外將校以下晝間器具(救
 命胴衣ヲ含メ)及ニ衣ヲ脱スルコトヲ得
 但船内衛矢ノ上衣ヲ裝スベシ
 晨ニ免室ヲ防ニ注意スルト共物品ノ整理並ニ保管ニ意ヲ
 付セテスベシ
 四前項ノ要員施ニ部隊船内諸規定又及言備訓練ノ實行
 ヲ妨ケズ
 五船橋及船橋甲板ニ勤務者以外下士官以下ノ通過及
 位ヲ禁ズ

巡察船以下二官又衛兵ノ交通統制ヲ嚴正ナラシムベシ

警備司令ニ巡察勤務ヲ監視督励スベシ

六 船枝以下本船諸作業ノ實施ニ妨害マサルコトニ留意ス

減ナキヲ期スベシ

七 予ニ依然船内輸送指揮官室ニ在リ明十二日早朝

上陸輸送會談ニ出席ス

輸送指揮官 西路口中佐

下達後 命令ニ後魚者ニ要旨口筆筆記後印刷配布

輸送指揮官 命令

五一七九 杭輪命第一二號

一九二七、二一、一七〇〇

一 門司在泊周轉ニ示ス場合、外夜所船枝以下依然裝具

又上衣ヲ脱スミトヲ得キ救命胴衣ニテヲ裝着スベシ

特ニ甲板ニ三位(置)スルハ履冷ニテ妨ニ萬全ヲ期スベシ

二 兩余ノ件ニ関シハ杭輪命第十號ニ據ルベシ

輸送指揮官 西路口中佐

東京 小澤船

陸軍

下達後 要旨口筆筆記後印刷配布

輸送指揮官 命令

露輪命第一二四號

一九二七、一一、一八〇〇

一 五〇〇ヨリ日直船枝要旨書ヲ兵科船枝各一ヲ兩中隊各

一ニ署下ニ入ラシムベシ

二 一五〇〇ノ第ニ對テ監視履時ニ服務スル細部ニ関シハ副官

ヲヒテ指示セシム

三 一五〇〇ノ船首路入口附近ニ本十日一三〇〇ヨリ研習監視員ヲ

配置ス第ニ對テ監視履時ヲ指揮スベシ

四 茶谷大尉ニ對シテ區署スベシ

輸送指揮官 西路口中佐

下達後 要旨口筆筆記セシム

記 事

一 各中隊先任者、船室ニ集合シ命令傳達旨ヲ傳達シ示ス

二 煙紀、操舵、船内清掃、整理、火警ニ對シテ、灯火管制、

火災預防、衛生ニ注意スルコトヲ物品所持品ノ整理保管

節水 左側通行ト之クメ船内逆行ヲ禁ス

灯火管制ニ関シテハ日没後甲板ニ於ケル喫煙ヲ嚴禁ス

二予第一對潛監視哨長トシテ服務ス

三日直務板トシテ同中尉 水野今夕尉ト基備司令ノ指揮ニ入

、服務ス

四計潛監視哨長トシテ左記ノ通リ番出シ第一計潛監視哨長ノ

指揮ニ入

第一中隊	佐 池田幸雄	第二中隊	佐 保川政次
上 稻葉章一	上 河内長次	加藤信次	大清虎一
鈴木延次	篠田太郎	若狭孝太郎	上田三郎
金平清	早坂西雄	胡田繁藏	天崎宗三

東京 小津藩

陸軍

命令 部隊

校輸命第十二號

一九三七(一)八〇〇

第五一七號戰鬥計畫(機密) 第一〇一號

首題、待本冊ノ通リ發行後、各部隊ニ分送ス

各部隊ニ及ぼす前線之ガ防務ヲ期ス

輸送指揮官、自任

二戰鬥計畫(第五一七號)

目次

第一、方針

第二、要領

其一、積極的戰鬥要領

其二、消極的退避動作

其三、警備訓練

其四、其他

第一、方針



第一 方針

一 重点の積極的対潜戦は指向し隨時求む之が撃沈ヲ期
し消極的退避動作ヲ從トス

二 対空戦は射火カヲ主トスモ極力所有全火力ヲ發揮シ射火
第一 要領

其一 積極的戦事要領

三 積極的戦事ノ開始ニ直帝輪送指揮官ノ命令ニ振ル

四 積極的対潜戦ニ於テハ極力各種火力ノ集中發揮ニ努

ム 対潜射撃部隊ノ各級指揮官ハ特ニ示スモ、外本船

友軍ノ彈着ヲ察見スル別命ヲ速ニ該点ニ急能射火力

ヲ集中シテ独新自主的戦事ヲ放行ス

五 戦事ニ當リテハ對修船危害防止ニ著志スルト共ニ狀況

之ヲ要スル一部友軍ノ損害ヲ顧慮スルモ尚敢然身ヲ

以テ責任シ敵艦沈没ノ一途ニ徹ス

東京小津館

陸軍

六 対潜監視ノ重兵ノ夜間船尾方向ニ指向ス

七 対空監視ノ重兵ハ遠方位音響ニ指向し近方位目視ヲ從トス

八 対空戦は主火力ハ射トスモ可能全火器全火力ヲ發揮シ期

ス 爲之敢斗第一主義ニ徹シ別命ヲ所在指揮官臨機

ノ號令ニ據リ全小銃火力ヲ集中必墜ス

TAノヲモ一部ヲ以テ隨時対空射撃ヲ實行ス

九 報告正確ニ速達ヲ重視ス

十 対潜警戒備要領別紙第一如シ特ニ氣氛ノ文感必要

水面水域ノ望ヲ重視ス

十一 砲側面彈藥ノ完整ヲ圖ルト共ニ之ヲ分散配置ニ着眼

其二 消極的退避動作

十二 退避動作ノ基礎ニ迅速正確ナル発見報告操舵又

以上三者ノ緊密な内滑ニ連繫ニ存ス

各種通信施設ニ具體的創意ヲ加ヘ原始的ニモテ之ヲ
シ極力之カ定數ヲ期ス

十三 暗里ニ下ニ於ケル靜肅整々トシテ全員ノ繩掛ナリヨル船中
出神速ニ所命集合地長手不結ノ動作ヲ重視ス

十四 退避動作ノ根基ハ尤者ニ徹セタルモ其言ハテニ在
ス 將校以下別命ヲ駐歩ヲ禁シ武人ノ嗜ヲ里計
テ前行者ノ追越越越ヲ許サズ

號令ニ指示權ハ三連中隊長以上幹部ニ專任ニ在
シ爾余ノ下士官以下ノ戰友相勵ミシ俸友相代トシ
下一致沈著者宏量斷リテモ言ハテ行ニ徹ス

十五 退避準備(喇叭號音「氣ヲ付ク」ト退避開始(喇叭
「前ハ」トテ嚴禁ス

夫甲板ニ所命任令地長ニ集結ヲ完了ス別命ヲ介隔
毎ニ團結シ異狀ノ存セヨ小隊長ニ報告ス

東京小津藩

陸軍



介隊長ニ予メ所要ノ組ヲ編成シ下級者ニ進ニテ上級者ノ摩手
握下ニ入ルルモ上級者ニ不齊ニ部下ノ摩手ニ因テ全責任ヲ
負ス 掌握集結ノ最上責任單位ニ組トス

組ハ概シ一介隊ノ下ヲ以テ標準トシ過度ノ細分ヲ戒ム
十七 各級指揮官ニ部下摩手ノ事情ヲ察シ逐次上級者指揮
官ニ報告シ以テ輪送指揮官ノ決ハ処置ヲ適切ニス

十八 標水資材ノ投海ノ時機ニ喇叭號音「駐歩」ヨリ之ヲ命ス
十九 飛込ニ喇叭號音「突進」ニ據ル

二十 前諸頭各官ニ輪送指揮官トシテ之ヲ傳達シ爲ニ通
帝喇叭號音ノ外階級遞傳ヲ併用ス

二十一 船内整備ノ遞傳責任者ハ小隊長以上ノ幹部ニ特ニ
スミハ外下士官以下ニ對シテハ之ヲ責任ヲ開放ス

二十二 燈火資材ノ分配ニ級海要領ニ團シ事前準備ヲ周知
ス

全編ノ第一林林下

三 輸送指揮官、船橋上ニ位置シテ全般ヲ統一指揮ス
四 副官、書記ニ傳令ニ刺シテ、別命テ輸送指揮官ニ隨行ス

三 對潛射擊部隊ニ砲矢ノ退避動作ニ関シテ、船艙
内部隊先任將校ノ區署下ニ入ラシム

三 艦艇船艙兩部隊ノ集結位置ノ境界ノ船橋甲板申
央トス

三 天、漂水後ノ動作、各部隊ノ訓練ニ所ニ據ル
其ニ 警備訓練

三 訓練ノ重具ハ之ヲ積極的戰鬥ニ指向ス
天、退避動作ノ重具ハ最悪ノ場合ヲ基準トシテ整理シ且
神速ナル警行ニ指向シ特ニ反復訓練ヲ重視ス

最悪ノ場合、基準ハ電線被壞ノ暗黒裡、舷梯飛散
ノ下全員繩梯子ニシテ神速ナル甲板進出動作ヲ要ス

東京小津部

陸軍

行ヲ目標トス

三 九、警備警行號令以外船内ニ於テ吹奏ヲ禁ス

三 十、警備訓練ハ日課時限ニ基キテ行ハス

三 十一、訓練ノ美名ヲ借ヒテ真劍ナル警備ヲ勿ルニシテ許サス

對潛對空ノ監視勤務ニ於テ特ニ然リ

三 十二、訓練警行ニカケテハ、訓練ノ語ヲ冠シ警備警行ノ發
動ト明別スルニ最モ嚴シク注意ヲ要ス

其ニ 其他

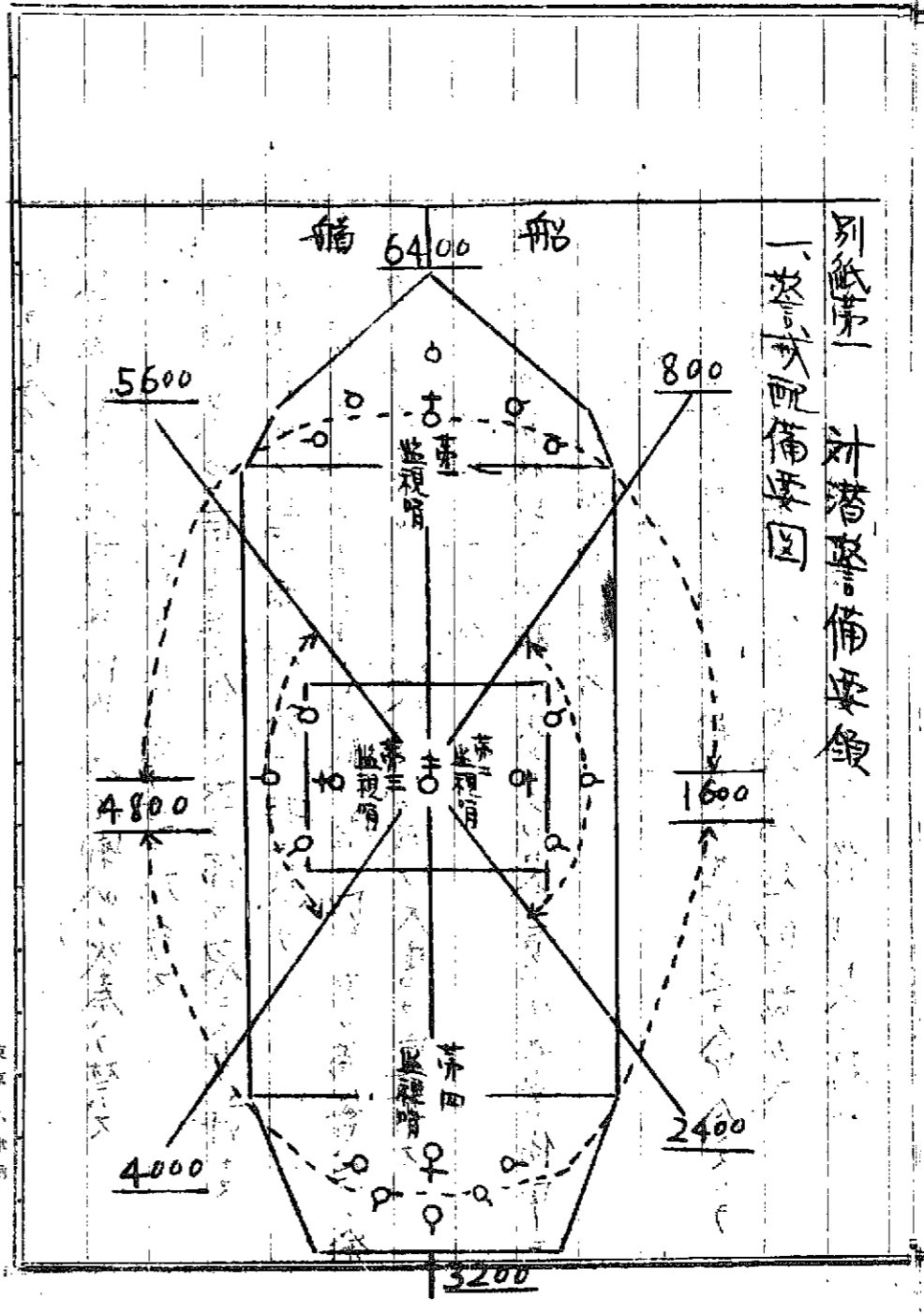
三 十三、航行時將校以下甲板ニ出スル者ハ全員退避裝備甲
據ニ救命胴衣ヲ装着ス

船艙(底)ニ在ル者亦右ニ準テス

三 十四、船員ニ對シテ協力ニ周シテ輸送指揮官之ヲ命令スル
本則トスルヲ將校獨斷區域積極的ニ協カス

三 十五、爾余ノ諸件ニ関シテ、船内警備規定ニ據ル

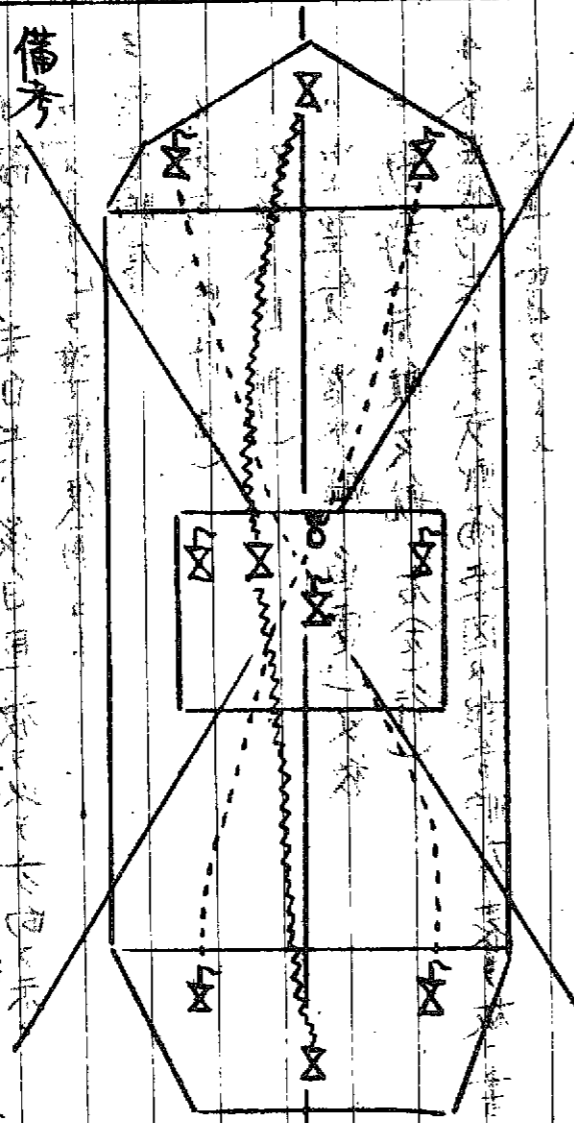
別紙第一 対潜警備要領
一、警戒配備要図



東京小津網

陸軍

報告要領
一、警戒配備要領(運用)は別紙第一(右)に示す。各隊はこれを厳格に遵守す。



備考
一、警戒配備要領(運用)は別紙第一(右)に示す。各隊はこれを厳格に遵守す。
二、区画：警戒配備要領(運用)は別紙第一(右)に示す。各隊はこれを厳格に遵守す。

陸軍

東京小津納

ハ、電燈、文、電燈トス
 注意電燈押釦、真直確實ニ押ス
 2. 手旗及透佛ノ係用
 1. 敵発見 赤白上下後白單旗ヲ以テ方向ヲ示ス
 ロ、メカ不シラ準備使用ノコト
 3. 報告順序
 1. 方向 (時計法)
 2. 距離 (目測)
 3. 潜望鏡 (潜水艦、魚雷) 又数
 4. 動靜 (月、航、右左) 行
 5. 各監視哨長、警、文配備要図又報告順序表ヲ板ニ書キ設置シ置キモトス
 5. 監視ニ備リテハ船舶砲兵ト重複監視シ各監視將校ニ於テ密ニ庫繋スルモトス

年月日

昭和十九年七月五日 晴

陸軍

勤務	自六時至三時。退避訓練ニ実施ス
記	部隊ハ爾後ノ行動準備ノシメ依然ハ可港ニ碇泊ス
勤務	炊事援助要員トシテ TA.P. RIA ヨリ各一名ノ勤務セシム
勤務	対潜監視哨兵長以下七名 第二中隊及 第八中隊ヨリ差出シ 服務セシム
給養	一日直下ニ各 第一中隊陸軍々曹日西國忠達大服務ス
衛生	船内給養
衛生	將兵共ニ里席ナシ
年月日	昭和十九年七月十三日 晴
命令	第一七九抗輪命第五號 伊萬里港
命令	敵情ニ関シハ已達ノ如ク新報ヲ得ス
命令	本船ハ本夜現在地ニ碇泊シ夜半ロロ碇錨整シ或海面ヲ

突被航進セリス

- 一、各部隊ハ假泊間將兵ノ休養ニ努ムト共ニ特ニ夜間航行ニカクテハ敢言或テ嚴テラシムヘシ
- 二、假泊間船槽内ニ於ケル假眠ヲ許可スト共ニ其ノ服裝ハ巾可在泊間ニ於ケルモノニ據ルコトヲ得但上衣ハ之ヲ裝スベシ
- 三、本月十二日消燈時限ハ二〇三〇ニ明十四日起床時限ハ二〇〇〇ニ変更ス

輸送指揮官

所路口中佐

下達法命令受領者口達筆記後印刷交付

一、六〇〇門司港ヲ出港シ空海ノ嚴重ニ速言或テ下目的地ニ向キ航行ス

二、自〇九〇〇至一〇〇〇迄退避訓練員充テス

三、監視衛兵隊九中队水第三中队ヨリ差出交代服務ス

四、炊事援助委員同隊ヨリ交代服務セム

東京小津船

陸軍

三日直下士官 第三中队 齊藤 伍長 服務ス

給 養 一船内給養

衛生 一異狀ナレバ多少船舶消毒ス



年 月 日

昭和十九年七月十四日

晴

命令 輸送指揮官

所路命第五一六號

五二七丸

所路命第五二二號ニ據ル船船上衛兵ノ服務要領ヲ次ニ示ス

衛兵船船部隊ノ混成トシ司令一歩留掛、衛舎掛各

一歩留九計十二名トシ歩留六(船首樓下兩舷歩留)ヲ除キ

兩舷ヲ別ヨリ服務セム割出ノ細部ハ各隊毎ニ注意ス

船船上衛兵服務要領

工司令特別事項

一、特ニ示スモノ外作員業務令ニ據リ服務ス

<ul style="list-style-type: none"> 二 機密書類(含地図)ヲ監視保管シ危急ニカク違ナキ時ハ責任ヲ以テ之ヲ海没ス 三 右舷船橋下通過路ヲ定位トシ前方船橋通路及船首樓兩階段入口ニ軍哨各一ヲ配置警備ス 四 夜間(自二〇至四〇)多ク睡眠ヲ許ス 五 服装ニ退避裝備乙トス 五 船橋歩哨特別守則 <ul style="list-style-type: none"> 一 前方船橋下通路中央附近ヲ定位トシ主トシ船橋甲板通過者ノ取締ニ任ス 二 夜間ハ灯火監視特ニ甲板ノ喫煙ヲ監視ス 三 異狀アルトキハ直ニ司令ニ報告ス 四 水槽歩哨特別守則 <ul style="list-style-type: none"> 一 水槽入口ヲ定位トシ將兵ノ船首樓下右舷船倉室ハ出入ヲ禁ス

東京小津船

陸軍

<p>爲之に寒冷、防護ニ努ムルヲ</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 灯火管制ニ周シテハ西船橋歩哨ニ協力シ各人ノ実行ニ努ムル 二 船内ノ清潔ヲ保持シ、喫煙ノ妨害セズ 三 水筒、雨水ニカラムルヲ 四 便所ノ設備ニ努ムルヲ 五 便所ノ設備ニ努ムルヲ 六 天火大ニ防ニカキ、持ニテハ中甲板ニ於テ喫煙セザルヲ 七 通路等ニシテマカラサルト 	<p>立</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 五二七丸、ヨロヨロ伊ノ里出帆目的地ニ向ヒ航行ス一九三〇久 二 玉環等ニ到着 三 一九三〇ヨロヨロ返航訓練ヲナス 	<p>勤務</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 第四中隊ヨリ兵六名対潜監視衛兵トシテ服務ス 二 日直下士兵 第六中隊櫻井 伍長服務ス 	<p>給養</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 船内給養 甘味品支給セラル
---	--	---	---

衛生

一 胃腸病等ノ多ク船酔者出ス

昭和十九年七月十五日

杭輪命第十五號

鹿見島湾

一 敵情ニ関シ新報ヲ得ス

二 部隊ニ現在地ニ假泊待機シ次期行動ヲ準備セントス

細部ハ別命ス

三 各隊ニ已達戰斗計畫ニ基キ積極計畫的ニ訓練ヲ反

覆スルト夫ニ軍紀ヲ振作シ諸規定ヲ確行辨ニ防夜

節水至保清ニ徹スルト夫ニ保健ノ向上ニ努力スヘシ

体操ヲ勵行シ防蠅ヲ水鏡等實行スヘシ

四 船内交通統制施設就中甲板上下通路ヲ用致スヘシ

五 鹿見島在泊時ニ不モノ外勝枝以下装具及上衣ヲ脱

スニトテ得モ夜間甲板上ニ出ス者ハ救命胴衣ヲ装スヘシ

東京小隊納

陸軍

寒冷予防ニ関シテハ各人創意工夫スベシ

日課時間中起床及日朝トナリハ別命ナシハワスロトス

五 予ハ船内輸送指揮官ニ在リ

輸送指揮官 所路ロ中佐

下章 印刷文布

一 五〇〇五七九依然予定地ニ向ヒ久玉嶺ヲ出現以テ

二 一ノロコノ一ニミヨリ退避訓練ニ着手ス

三 日直下士等 舟内中隊皆對值先服務ス

四 対潜監視 行先トシテハ七中隊ヲ長以下大ニ服務ス

五 火災予防 特ニ夜間甲板ニ於テ喫煙ヲ禁ズ

六 通路ニシテフサガラヌコト

七 個人衛生 舍内外ノ清掃ニ防蟻ノ排除ヲ勵行

八 船内給養ニシテ草パン給養ス

九 船酔者稍多シ他患未達ナシ

衛生



天 年 月 日
海軍
附 属 部 隊 官
人 員

二 第六中隊 陸軍兵下田中仙藏 肺炎、疑、以テ東京島津金
病院ニ入院ス

昭和十九年七月十六日

晴

航輪 命第十大號

七、一六、〇七、〇〇
鹿 貝 島 港

一 部隊、本十六日一四〇〇ヨリ約一時間、予定ヲ以テ船内清
潔防疫検査ヲ實施セントス
検査場所ヲ次、如ク定ム

- 1. 船艙内
- 2. 甲板待機位置
- 3. 西監視哨位置
- 4. 西射擊部隊位置
- 5. 甲板交通路ノ整理
- 6. 船内衛兵所
- 7. 船内隔離室
- 8. 便所
- 9. 炊事場

東京小港船

陸 軍

二 船艙内部隊、各々其定位先任者ヲ統一區署ヲ以テ各検査
場所毎ニ指導担任官又ハ實施部隊ヲ区分明示シ所在應
用材料等ヲ創意工夫シテ作業ヲ實施シ一四〇〇迄ニ受
検態勢ヲ完了シタルヘシ

作業實施方ニテ、船具ノ使用ヲ禁入
廢棄物件、以テ集積收容シ各指導担任官ノ已
署ヲ以テ一指海没沈下、処置ヲ講スヘシ

勤務負(衛兵ヲ除ク)ニ検査開始當時現ニ服務シ
アル最小限ヲ残置シ爾余、船内待機ノ定位ニマリテ
受検ス

服装、航輪命第十五號ニ據ルニ検査時西先任
將校、本日現在迄ニ於テ捕蝶狀況ヲ併々筆記報
告スヘシ

嚴ニ危害ヲ防ニ注意スルニ共ニ所望ニ應ニ局所ニ於テ